

蛭ヶ岳山荘通信 第67号

発行日 平成29年 1月15日
発行者 北丹沢山岳センター
事務局 神奈川県横浜市緑区小瀬1545-1
TEL042-687-4011
FAX042-687-3980

新春を迎えて

平成29年1月1日 木全 広幸

平成29(2017)年元旦、快晴の空に初日の出を自宅を迎えた。正月を自宅でゆっくりくつろぐのは何年ぶりだろうか。蛭ヶ岳山荘の管理人は、2人が原則1週間交代で運用しているので、正月の当番は暦の関係から5～6年周期で交替することになる。今年は大晦日を会い方と2人で対応し、元旦に下山する予定であった。ところが、12月10日(土)、山へ上がったその日の夕方に妻が体調を崩し、救急車で病院へ搬送されたことから、急ぎ翌日に山を下り、以来ずっと妻の看病を余儀なくさせられているところである。幸い大事には至らず、自宅療養を続けながら様子見といったところであるが、その間、相方の東城さんをはじめ、サポーターの皆さん、事務局の方々に大変ご迷惑をおかけし、申し訳ないことをした。思い起こせば12年前、丹沢に憧れ、会社を早期退職までしてこの職に就き、今まで無事に続けられたのは、妻の協力があったからこそ出来たのだと思う。感謝しなければならぬ。神ノ川ヒュウチの管理人を経て、ちょうど9年前の蛭ヶ岳山荘着任当時、「15年余り前に想い描いた定年後の姿が今ここにあり、改めて思う。この先もずっと、体力、知力がある限り、ここ蛭ヶ岳山荘の小屋番であり続けたい。」と、その時の気持ちを締めくくっているが、この仕事は本人の体力知力もさることながら、夫婦が共に健康でなければ安心出来ないことを改めて思い知らされた。そろそろ潮時かもしれない。初詣は、苦しい時の神頼み、いつもに増して「家内安全」を祈り、できる限り早い時期に後任の管理人候補が見つかるようお願いした。今年には信頼できる管理人を見つけ、その後任への円滑な引継ぎを行うことが目標となりそう。関係各位とよく相談をし、達成させたい。年頭に当たって今の率直な気持ち綴ってみた。



蛭ヶ岳山荘 11月～12月の日誌より

11月 ◆山頂付近は紅葉のピークを過ぎ、今見頃は山の中腹に移っています。姫次のカラマツ林は太陽の光を浴びて黄金色に輝いています。11月2日のダイヤモンド富士は曇り空の為残念ながら観測出来ませんが、前後の11月1日と3日は観測になりました。特に11月1日は午前中雨でしたが、午後から快晴になり素晴らしいダイヤモンド富士を見ることが出来ました。当日宿泊されたお客さまは、突然遭遇した光景に、雨の中登って来た甲斐があったと、とても満足されていました。11月14日はスパームーンが現れます。これも期待しましょう。これからの季節は空気が澄み渡り、夕陽が沈んだあとの富士のシルエットや、東京・横浜方面の壮大な夜景が宿泊客を魅了します。◆11月も中旬となり本格的な冬が訪れ霜や霧氷や初雪も観測されました。最低気温が0℃を下回る日もございます。紅葉は中腹辺りが見頃を迎え、姫次のカラマツも見事に黄金色に輝いています。◆山頂付近は紅葉も終わり、比較的暖かな初冬を迎えています。例年この時期には、氷点下や初雪を観測しますが、今年はまだありません。姫次のカラマツ林の黄葉もピークを過ぎ、山麓へと移りつつあります。11月14日のスパームーンは生憎の曇り空の為、観測出来ませんでした。◆前後の日にはほぼ満月に近い大きな月をみる事が出来ました。◆丹沢は24日(木)この時期には珍しく記録的な大雪が降り、山頂で約25cmの積雪がありました。山頂はすっかり本格的な冬の様相です。安全には充分気を付けて冬の丹沢をお楽しみ下さい。丹沢山～蛭ヶ岳間の登山道の整備が完了し、大変歩きやすくなりました。



12月 ◆雨や曇りの日が続きスッキリしませんでしたが、後半週末にかけては好天に恵まれ、高校山岳部の合宿や忘年登山を楽しむ大勢のお客様で賑わいました。前週の季節外れの大雪は雨ですっかり融けてしまいました。12月に入って空気が一段と澄み渡り、山頂からの360度の大パノラマがハッキリと目に映るようになりました。東京スカイツリーも肉眼で確認する事が出来ます。東京・横浜方面の壮大な風景が宿泊客を魅了します。◆先月24日に降った雪は現在全く残っておりません。雪はございませんが、最低気温が氷点下の日が続いています。◆霧氷の綺麗に付く日が多くなってきました。夜景もお楽しみ下さい。◆週中程一日だけ雨になりましたがその他は快晴に恵まれ朝焼けに赤く染まる雲、夕焼けに浮かぶ富士山等素晴らしい眺めで、お客さまは自然の変化に目を見張っていました。

蛭ヶ岳山荘年末年始の報告書

蛭ヶ岳山荘の年末年始は天候に恵まれ、多くの登山者で賑わいました。山頂では11月25日に降った残雪7cmが光り輝き、年末年始は120名近くが訪れました。山荘では、東城管理人が新年に相応しい正月料理で山小屋の食事を彩りました。特に蛭ヶ岳山荘はリピーターの登山者も多く、霊峰富士山の眺めは日本一でした。山荘には東城管理人の他サポーターとして北丹沢山岳センターの奥山氏もお手伝いに駆けつけました。左記の写真は神々しい初日の出を蛭ヶ岳山頂で臨んだ宿泊者の皆さんです。



編集後記 蛭ヶ岳山荘は昭和30年第10回神奈川県に合わせ設置されました。同31年には原小屋が、同39年には神ノ川流域の長者谷山荘の建設がなされました。かつて昭和25年頃には主脈主稜線には登山道もなく、アメリカ軍の飛行機が蛭ヶ岳より沢へ墜落した際の救助作業は地元消防団やアメリカ軍は仏谷を登り作業したといわれています。そしてこれはアメリカ軍の機密の為公にはされず、平成10年に漸くアメリカの公文書館で公開されました。杉本 憲昭